

# ロマンは実を結ぶ

No.221

## 岡山地方本部 福山列車区分会

私たちは福山列車区分会は、内勤、運転士、車掌合わせて180名の組合員で構成されています。

平成27年に岡山支社の西の端・糸崎から、福山の地に職場が移りました。それに伴い「糸崎乗務員分會」から「せとうち乗務員分會」へ名称を変更しました。そして平成29年に会社の実施した、せとうち地域鉄道部の廃止を受け、「福山列車区分会」として新たなスタートをきりました。

福山列車区分会は福山駅から

### 福山城の歴史と共に歩み 未来に向かって安全文化を築く

徒歩5分の場所にありまは、福山城のすぐ北側にも珍らしい、天守閣を間近に望むことが出来る駅です。

福山列車区分会、山陽本線、福塩線を乗務線区とし、地元の方々の日常生活を支えるインフラとしての役割を担っています。運転士と車掌が協力して日々の業務に励み、訓練と共に取り組む機会もあり、職場にはとてもアットホームな雰囲気の流れています。

分会では、JR採用の組



長所は運転士・車掌の連携

合員が過半数を超えベテランを大きく上回っています。後藤分会長を中心に、安全最優先の考動、技術・技能とJR西労組運動の継承のため活動を行っています。

女性組合員も運転士7名、車掌12名が在籍し、そのうち2名が執行委員として活躍しています。

また、毎年「お花見」や「サマーキャンプ」を開催。各種取り組みにも積極的に参加するなど、若手からベテランまでが集う交流の場を設けています。

## ウエスト君 中野リキ (No.330)



第一部では、JR西日本く説いた。

安全研究所の河合所長が基調講演を行い、「ヒューマンエラーは結果であって原因ではない」との考え方を改めて示すとともに、個人レベル、組織レベルの課題に対応するため、レジリエンス(「想定外」に対応する能力の向上)の必要性について、力強



JR西労組からは福本業務部長が参加したパネルディスカッション

取り組み報告」では、JR西労組を代表して、福本業務部長から「JR西労組の安全確立に向けた取り組み」と題して、これまでのJR西労組が取り組んできたアンケート結果の解説や、グループ全体の取り組みについて、紹介がなされた。

第二部はパネ



会場には300名の組合員が詰めかけた



連合大阪主催のメーデーには、3万2000人が集結

今年も全国各地において、メーデーが開催された。連合大阪主催のメーデーは、5月1日に大阪城公園・太陽の広場において開催され、中央本部の役員・職員も参加した。

当日は暑い日差しの中、大阪地本、本社総支部、西バス地本など、大阪地区に籍を置くJR西労組組合員や家族も数多く参加し、全体では3万2000人(連合大阪発表)が集結しての集会となった。

## JRグループ全体の安全確立に向けて JR連合第10回安全シンポジウム

5月10日(木)、ホテルグランヴィア広島に於いて、JR連合が主催する「第10回安全シンポジウム」が開催された。会場にはJR連合を構成する各単組から300名が集まり、JR西労組を含むJR西日本連合からも120名が出席した。

取り組み報告」では、JR西労組を代表して、福本業務部長から「JR西労組の安全確立に向けた取り組み」と題して、これまでのJR西労組が取り組んできたアンケート結果の解説や、グループ全体の取り組みについて、紹介がなされた。

第二部はパネ

## 各地でメーデー開催!



大阪城公園・太陽の広場にて開催

## メーデーとは

1886年にアメリカの労働者が「8時間労働」を要求してゼネラルストライキを起こしたことが起源。

当時のスローガンは「第1の8時間は労働のために、第2の8時間は休息のために、そして最後の8時間は私たちの好きなことのために」というもの。かつて労働者の労働時間は12~14時間が当たり前であった。

このゼネラルストライキは、8時間労働がなかなか実現しない中で、その後も5月1日に行われ、1890年には世界の労働組合に波及、第1回の国際メーデーが実施された。

## 2019春闘に向けて①

### 2017年度 期末決算について

会社は4月27日に2017年度期末決算と2018年度の見通しを発表した。2017年度は連結決算・単体決算ともに増収増益であったことが明らかとなった。

2017年度 期末決算について								
2018年4月27日 西日本旅客鉄道株式会社 (単位: 億円、%)								
1 決算概要	2017年度 実績				対前年			
	2016年度 A	2017年度 B	増減 B-A	比率 B/A	2018年度 予想 C	対前年 増減 C-B / 比率 C/B		
連	営業 収益	14,414	15,004	590	104.1	15,255	250	101.7
結	営業 利益	1,763	1,913	149	108.5	1,875	△ 38	98.0
経	常 利	1,607	1,777	169	110.6	1,740	△ 37	97.9
親	会社株主に帰属する当期純利益	<1.29>	<1.37>	192	121.0	<1.24>	5	100.5
単	営業 収益	9,561	9,762	201	102.1	9,880	117	101.2
体	運 輸 費 用	8,496	8,678	181	102.1	8,780	101	101.2
営	業 利 益	8,206	8,319	112	101.4	8,430	110	101.3
業	常 利	1,354	1,443	88	106.6	1,450	6	100.4
経	常 利	1,184	1,286	101	108.6	1,310	23	101.8
当	期 純 利 益	708	807	99	114.0	895	87	110.8

(注) <>は連率倍率を示しております。

また、通期業績予想でも、単体では増収増益の見通しが公表された。これは、春闘のベースとなる重要な指標である。来春闘勝利に向け、組合員一人ひとりが会社の経営状態に関心をもち、増収増益に努める。

※期末決算のポイント

①2017年度期末決算は、熊本地震影響の反動等もあり、連結、単体ともに増収増益。

②2018年度は、「JR西日本グループ中期経営計画2022」及び「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の初年度であり、鉄道事業と創造事業が一体となって施策を強力に推進。

③2018年度は、「JR西日本グループ中期経営計画2022」及び「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の初年度であり、鉄道事業と創造事業が一体となって施策を強力に推進。

④2018年度の連結業績予想については、国内外情勢や経営環境の変化に不透明感があるものの、新幹線安全管理体制の機能向上とともに、輸送サービスの利便性向上等による鉄道運輸収入の増収や不動産販売事業の拡大等により増収を見込む。

⑤2017年度の期末配当金については、1株あたり80円を予定(2018年度は年間175円を予定)。

な景気拡大を背景に、多客期などのご利用が好調であったことや、2016年4月に発生した熊本地震影響の反動などにより増収。

②「JR西日本グループ中期経営計画2017」に掲げた戦略方針に沿って各施策を確実に実施し、お客様満足度向上などに結実。また、財務指標は目標を大きく上回り達成。

一方で、安全に関して一部の目標が未達成となったほか、新幹線重大インシデントを発生させたことを大きな課題と認識。